

IPビジネスに対して規制が与える影響に関する研究

『サイバーパンク エッジランナーズ』の中国展開を事例に

要旨

氏名：余心越

近年、日本のアニメ消費市場では海外市場の占める割合が拡大しており、とりわけ中国を含むアジア地域からの収入が突出している。しかし、巨大市場である中国に関しては、規制環境が存在している故に、検閲に引っかかったコンテンツの流通方式と収益モデルの解像度が低いままである。

上記の状況を踏まえ、本論では規制環境下で日本のアニメ作品が公式ルートを外れて浸透していく現象、いわゆる「滲み出し現象」に着目し、先行研究への批判的考察を基に、表現規制が現代のIPビジネスにおける価値創出と流通の構造に与える影響について考察する。また、規制が及ぶ反動や規制からの滲み出しの効果を文化形成に留まらず、商業的な価値創出とその価値が版權側へ還元されるメカニズムの解明を目的とする。本研究の分析対象として、中国では公式配信が行われなかったにもかかわらずネット上で大きな話題となったNetflixオリジナルアニメシリーズ『サイバーパンク エッジランナーズ』を選定し、フィールドワークの手法を活かし、ケーススタディを行う。本ケースを通じて、① 規制下でコンテンツが拡散するメカニズム、および② それによって生じるIP価値の波及効果を詳細に検証する。

分析の結果、表現規制は単にコンテンツの流通を抑制するのではなく、一次流通を狭めることで、断片共有、二次創作、越境EC、非公式字幕流通といった「滲み出し」経路を活性化させることが確認された。また、結論となる本研究の理論的貢献は、規制環境の存在が著作権侵害者（ファンダム）の主観的能動性を高め、彼らを布教的役割を超えて、資本主義的な収益構造に組み込まれる主体へと変容させている点にある。言い換えれば、規制によって強化された海賊版を基盤とした「滲出」の影響により、ファンダムは受益者として、著作権者との間に逆説的な共犯関係が形成され、IPの普及と収益化に寄与する一翼を担っていると論じられる。